

# アクトモア チルトコンパクト

- スイングアウト仕様
- エレベーター式スイングアウト仕様

## 取扱説明書

このたびは、本製品をご利用いただき、まことにありがとうございます。  
この「取扱説明書」には、本製品を安全にお使いいただくための注意事項  
や使用方法などを記載しています。

- 本製品をお使いになる前に、必ずこの「取扱説明書」をよくお読みいただき、正しく安全な取扱方法を理解してください。
- この「取扱説明書」はお読みになった後も、いつでも見られる場所に保管してください。
- 本製品は、改良などにより「取扱説明書」の内容と一部異なる場合もあります。
- ご不明な点がありましたら、当社までお問い合わせください。

この車いすは車載を前提に設計されておりません。  
この車いすは車の座席としての強度を考慮しておりません。  
座席として使用した場合には車載時の負荷により、車いすが破損する場合があります。

車いすが、体に合わない状態ではご使用にならないでください。  
健康をそこなうおそれがあります。そのような場合は、当社までお問い合わせください。

### ご使用前に

ご使用前に次のご確認をお願いいたします。

○ 各部の破損・傷、フレームのゆがみ、ボルト・ナットや部品の脱落はないか。

**もし異常があればご使用にならず、すぐに当社までご連絡ください。**

# 目次

<b>安全にお使いになるためのご注意</b>	3
<b>寸法一覧</b>	5
<b>各部の名称</b>	5
<b>機能説明</b>	6
<b>組み立て方法</b>	7
<b>安全にお使いになるためのご使用方法</b>	7
ご使用の前に	7
車いすの広げ方	8
車いすの折りたたみ方	10
車いすの乗り方・降り方	11
介助のしかた	12
その他の注意事項	14
<b>各部機能の使用方法</b>	14
ブレーキの使用方法	14
リフトアップの操作方法	15
ティルトとリクライニングの方法	16
フットサポート(前後&角度調整)	17
フットサポートの高さ調整	17
フットレッグサポート スイングアウト	18
フットレッグサポート スイングアウト&エレベーター	18
アームサポートの使用方法	20
ヘッドサポートの使用方法	21
バックサポートの調整方法	22
転倒防止	22
<b>クッション</b>	23
<b>車いすのお手入れの方法</b>	24
保管場所	25
<b>車いす点検シート</b>	25
消耗品・交換部品	25
<b>廃棄方法</b>	26
<b>もしこんなトラブルが発生したときは</b>	26
<b>空気圧管理不要タイヤメンテナンス方法</b>	27

# 安全にお使いになるためのご注意



## 警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定されることを示しています。



## 注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があることおよび物的損害の発生する可能性が想定されることを示しています。

### お守りいただく内容の説明



この表示は、してはいけない「**禁止**」内容です。



この表示は、必ずしていただく「**強制**」内容です。



## 警告

(禁止)



- 故障、異常のある際は、直ちに使用を中止してください。  
転倒・転落事故、ケガ等の原因となります。
- バックサポートの折りたたみのロックレバーに、かばんなどを引っ掛けしないでください。  
ロックが解除され、転倒・転落事故等の原因となります。
- リフトアップ時には乗り降りしないでください。  
駐車ブレーキがかかっていないため転倒事故の原因となります。
- フットサポートの上に乗って乗り込んだり、降りるとき上に立ち上がらないでください。  
車いすがバランスを崩し、転倒事故などの原因となります。
- 車いすのシート(座面)の上で立ち上がらないでください。  
転倒・転落事故などの原因となります。
- 階段、エスカレーター、段差のあるところ、砂場、砂浜、河原、ぬかるみなどの悪路では使用しないでください。  
転倒・転落事故等の原因となり大変危険です。
- MRI室で使用しないでください。  
非磁性ではありません。磁気に反応し、大変危険です。

(強制)



- バックサポートの折りたたみのロックピンが、カチッと音がして、完全にロックされていることを確認してください。  
転倒・転落事故等、ケガの原因となります。
- 側溝の格子溝や踏切などでご使用される場合は、必ず介助者の方に支えていただいでください。  
車輪が溝にはまって、転倒・転落事故等の原因となります。
- ティルトレバーを操作するときは、グリップをしっかりと握って操作してください。  
ティルトレバーを握った瞬間、使用者の体重の重みで座面がすぐに傾こうとしますので、使用者に不安感を与えないようにしてください。
- ティルト操作の時は、必ず駐車用ブレーキのドラロック(フットブレーキ)をロックし、車いすが動かないことを確認してから行ってください。  
車いすが動き、バランスを崩し、転倒・転落事故等の原因となります。
- リクライニング操作の時は、必ず駐車用ブレーキのドラロック(フットブレーキ)をロックし、車いすが動かないことを確認してから行ってください。  
車いすが動き、バランスを崩し、転倒・転落事故などの原因となります。



## 注意

(禁止)



- バックサポートやグリップに重い物を引っ掛けしないでください。  
車いすが不安定になり、転倒・転落事故などの原因となります。
- 車いすを広げる時に、座パイプの横や下に、手や指を入れないでください。  
パイプに手や指を挟んでケガをします。
- 縮み止めは必ずロックした状態で使用してください。  
強度が低下し、車いすが破損するおそれがあります。
- バックサポートパイプのみで、キャスト(前輪)を上げないでください。  
バックサポートパイプが曲がったり、折れたりして転倒や転落事故などの原因となります。
- スピードをつけて、段差を乗り越えようとししないでください。  
使用者が車いすから転落して、事故などの原因となります。

<p>(禁止)</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>■車いすを横向きにして、上に物を置かないでください。 重みで車輪フレームが曲がったりして、故障の原因になります。</li> <li>■リフトアップ操作時には、車いすから手を離さないようにしてください。 車いすが動き、危険です。</li> <li>■リフトアップした状態で段差の乗り越えや、凹凸のある路面の走行をしないでください。 必ず平坦な路面で、短距離の移動にご使用ください。</li> <li>■車いすで荷物を運んだりしないでください。</li> <li>■火気の近くに置かないでください。 タイヤがパンクしたり、シートが燃え火災の原因となります。</li> <li>■急ブレーキ、急発進、急旋回をしないでください。 使用者が前方へ転倒や転落をするおそれがあります。</li> <li>■ヘッドサポートを外したまま、使用する際は注意してください。 転倒や転落事故などの原因となります。</li> <li>■縮み止め・ヘッドサポート部を持って走行しないでください。 転倒や転落事故、ケガなどの原因となります。</li> <li>■フットサポートの角度調整の時、隙間がある状態で使用しないでください。 フットサポートが外れ、ケガなどの原因となります。</li> <li>■調整後は、バックサポートとヘッドサポートがしっかりと固定されているか確認してください。</li> <li>■指定されているボルト以外は調整しないでください。</li> <li>■ヘッドサポートを持ち上げたり、無理な力を加えたりしないでください。</li> <li>■ヘッドサポートを押しとして使用しないでください。</li> </ul>
<p>(強制)</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>■車いすを広げた時、座パイプが受けに収まっているか確認してください。 パイプが曲がったり、転倒や転落事故などの原因となります。</li> <li>■保管する場所には十分注意してください。 長期間使用しなかった場合には、各部の点検をしてから使用してください。</li> <li>■車いすの乗り降りは、路面の平坦な場所で行ってください。 車いすが動き、バランスを崩し、転倒や転落事故などの原因となります。</li> <li>■坂道を下るとき介助者の方は、下り坂の下側に立ち、ゆっくり確認しながら後ろ向きに走行してください。 前向きで下ると、使用者がずり落ちたり、前のめりとなり、転落や転倒事故などの原因となります。</li> <li>■側溝の格子蓋、踏切のレール溝にキャスト(前輪)が落ち込まないように注意してください。 車いすが急に止まり使用者の身体が前方に傾き、転倒や転落事故などの原因となります。</li> <li>■移動中、つま先が障害物に当たらないように、確認して走行してください。</li> <li>■フットサポートに足が乗っているか確認して走行してください。</li> <li>■必ず固定されている場所を持ってください。ヘッドサポート、アームサポート、フットレッグサポート、操作レバー、ブレーキなどを持たないでください。</li> <li>■車いすを持ち上げるときは座面の水平を保ち、使用者の転落には十分に注意してください。</li> <li>■リフトアップした場合、駐車用ブレーキのドラロック(フットブレーキ)がロックされていても、主輪が浮いているため、車いすが動くため注意してください。 人の乗せ降ろしなどの場合には、リフトアップを戻し車いすが動かないことを確認してから行ってください。</li> <li>■必ず両側をリフトアップしてください。 片側だけリフトアップするとバランスを崩し転倒、転落事故の原因となります。</li> <li>■ブレーキペダルとリフトアップペダルを間違えないように注意してください。 リフトアップ操作時にはフットブレーキが効かず、車いすが動きまわります。</li> <li>■リクライニングレバーやティルトレバーと制動用ブレーキレバーを間違えないようにしてください。 不意にバックサポートが倒れ、転倒・転落事故などの原因となります。</li> <li>■介助者の方は、制動用ブレーキレバーを両側同時に掛けてください。 バランスを崩し、転倒・転落事故などの原因となります。</li> <li>■フットサポート調整の時のボルトは、必ず締めてください。 フットサポートが外れ、ケガをするおそれがあります。</li> <li>■フットサポートが固定されているか、確認してから使用してください。 フットサポートが脱落し事故などの原因となります。</li> <li>■フットサポートの高さは、地面より屋外使用では5cm以上、屋外使用では3cm以上でご使用ください。 路面の凹凸や障害物にフットサポートが引っかかり、急に車いすが止まり、転倒事故などの原因となります。</li> <li>■スイングアウトを戻した時は、ロックが確実にされているか確認してください。 足を乗せたとき、外れて足をケガする原因となります。</li> <li>■アームサポートを下ろす時は、肘パッドの内側に指を挟まないようにご注意ください。</li> <li>■コの字型縮み止めパーツを外して使用しないでください。 フレームの破損の原因となります。</li> <li>■転倒防止パイプが必ず固定されているか確認してください。 転倒防止が外れ、転倒や転落事故、ケガなどの原因となります。</li> </ul>

# 寸法一覧

品名	キャスタ(インチ)	大車輪(インチ)	前座高(mm)	後座高(mm)	シート幅(mm)	シート奥行(mm)	アームサポート高(mm)
スイングアウト仕様	5	12	430	430	400	350~400	0・140~300
エレベーター&スイングアウト仕様	5	12	430	430	400	350~400	0・140~300

品名	バックサポート高(mm)	フット長(mm)	全長(mm)	全高(mm)	全幅(mm)	折りたたみ幅(mm)	重量(kg)	使用者最大体重(kg)
スイングアウト仕様	590~650	310~355	1000	1140~1200	535	400	約29.8	100
エレベーター&スイングアウト仕様	590~650	310~355 ※EV時は400~480	950	1140~1200	535	400	約31.5	100

※寸法値は、パイプ上の高さです。 ※全高にヘッドサポートは含まれておりません。 ※アームサポート高は、20mmピッチです。 ©改良のため、予告なしに仕様を変更する場合があります。

品名	ティルト角度	リクライニング角度	ティルト、リクライニング最大時寸法	全長(mm)
スイングアウト仕様	0~30°	90~125°		1385
エレベーター式スイングアウト仕様	0~30°	90~125°		1335

## 各部の名称



# 機能説明

## 〈ヘッドサポート〉

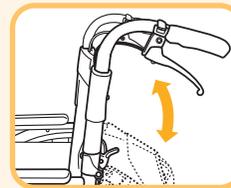
頭部を支持します。上下・前後・左右・角度を調整できます。



## 〈バックサポート〉

### 折りたたみ

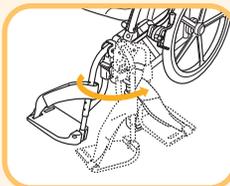
背もたれを折りたたむと、自動車などへの積み込みが容易に行えます。



## 〈フット・レッグサポート〉

### スイングアウト

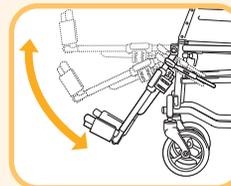
フット・レッグサポート部が開閉でき着脱可能です。ベッド、トイレなどへの接近が容易です。片手片足操作にも適しています。樹脂製で、操作も簡単です。



### エレベーター式※

#### ※エレベーター式 フットレッグサポート仕様

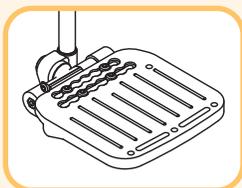
フット・レッグサポート部の角度が調節可能です。脚が硬直・変形している方に最適です。



## 〈フットサポート〉

### アジャスタブルフットサポート

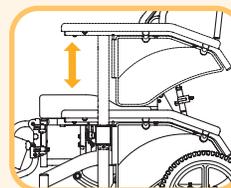
フットサポートの位置を前後調整できます。また角度も変更できます。



## 〈アームサポート〉

### 高さ調節

アームサポートの高さを調節して使用者の身体状況に合わせることができます。またシート(座面)と同じ高さまで下げることができるので、ベッドなどへの移乗時に大変便利です。



## 〈ブレーキ〉

介助者が走行中(下り坂)の減速・停止に便利です。



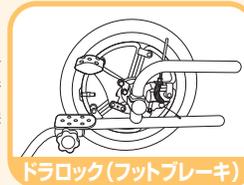
制動用ブレーキレバー

介助用のブレーキです。走行中や坂道で速度を調整する際に使用します。



ドラムブレーキ

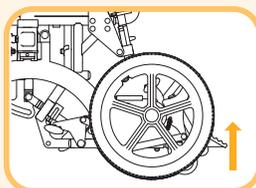
ドラムブレーキと一体化したブレーキです。介助者が足で操作します。



ドラロック(フットブレーキ)

## 〈リフトアップ〉

車いす主輪を浮かせることで、真横にも移動できます。ベッドへ近づく時に何度も切り返す必要がありません。また、狭いスペースでも小回りが効きます。

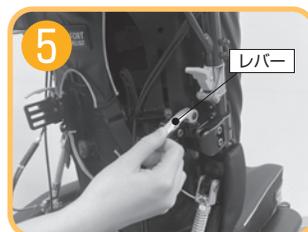


# 組み立て方法

## 組み立て方(バックサポート・ヘッドサポート)

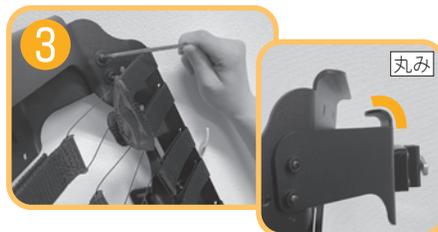
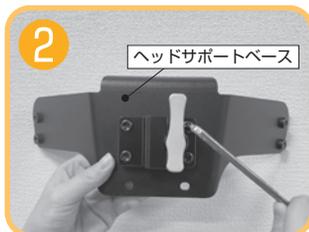
### ●アクトモア バックサポート

- 1 受け金具のネジ(2ヶ所)を六角棒レンチ5mmでゆるめ、車いす本体の背パイプへ挟むように取り付け、ネジ(2ヶ所)を仮締めします。  
※受け金具の位置は、背折れジョイント部の下側(右写真参照)に取り付けてください
- 2 取り付けした受け金具は、左右を同じ高さに合わせて金具同士が平行になるように調整し、ネジ(2か所)を締めて固定します。
- 3 位置がずれないように六角穴付き止めネジ(側面)を六角棒レンチで締めて固定します。  
※六角穴付き止めネジは、背パイプに直接埋め込むネジのため、受け金具を取り外した際に、背パイプに傷が残ります。また、ゆるみ止め加工はされていないため、ネジがゆるむおそれがあるため、定期的な点検を行ってください
- 4 取り付けした受け金具の穴に、バックサポート本体の左右にあるピンをレバーを上げた状態で奥まで差し込みます。
- 5 左右のレバーを下ろし固定します。レバーにゆるみがないことを確認してください。



### ●アクトモア ヘッドサポート

- 1 バックサポートベースは残し、背クッションのみを取り外します。
- 2 ヘッドサポートベースに支柱受けを取り付けます。  
六角棒レンチを使い、ヘッドサポートベースにある穴4か所へネジを差し込み、締めて固定します。  
支柱受けの高さは2段階から選ぶことができます。
- 3 支柱受けを取り付けたヘッドサポートベースをバックサポートのフレームに取り付けます。  
六角棒レンチを使い、フレームの左右に2か所にある穴へネジを差し込み、締めて固定します。  
※ヘッドサポートベースの丸みがある面を上に向けて取り付けてください
- 4 支柱受けにヘッドサポートの支柱を差し込み、ノブネジを締めて固定します。  
※ヘッドサポートの高さは、必ず高さ固定金具を調整してください(P21「ヘッドサポート」高さの調整を参照)



## 安全にお使いになるためのご使用方法

### ご使用の前に

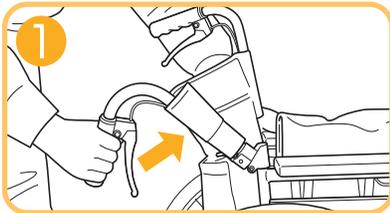
ご使用前に、安全にご使用していただくため、次の確認をお願いします。

- ・タイヤの摩耗・亀裂はないか。
- ・ブレーキに異常はないか。
- ・ブレーキをロックした時、主輪が回転しないか。

## 車いすの広げ方

\*折りたたんだバックサポートを起こす時は、車いすを折りたたんだ状態で行ってください。  
(広げた状態で行くと、バックサポートにバックサポートパイプが引っ張られ、ロックできなくなる場合があります。)

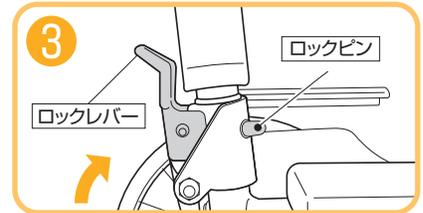
① グリップを持ち、矢印方向に、持ち上げます。



② バックサポートを両側起こします。



③ レバーを矢印方向に起こし、ロックピンが出ている事を確認します。



**警告**

●バックサポート折りたたみのロックピンが、「カチッ」と音がして、ロックピンが完全に出ていることを確認してください。  
(転倒・転落の原因となります。)



**警告**

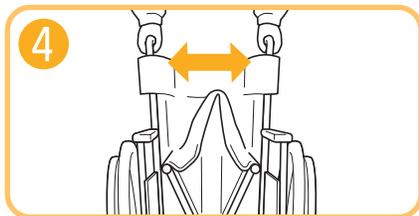
●バックサポート折りたたみのロックレバーに、かばんなどを引っ掛けないでください。  
(ロックが解除され、転倒・転落事故の原因となります。)



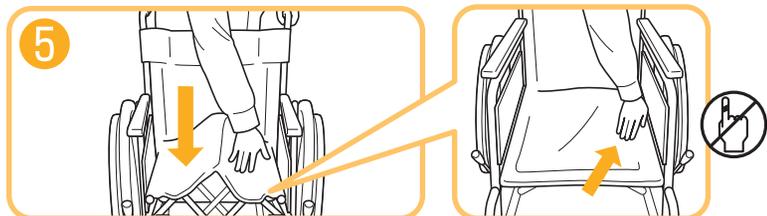
**注意**

●バックサポートに重いものを引っ掛けないでください。  
(車いすが不安定になり、転倒・転落事故の原因となります。)

④ 車いすの後方に立ち、左右のグリップを持って両側に広げます。



⑤ 片側のグリップを手で持ち、シートを手で下に押し下げると、シートが広がります。



**注意**

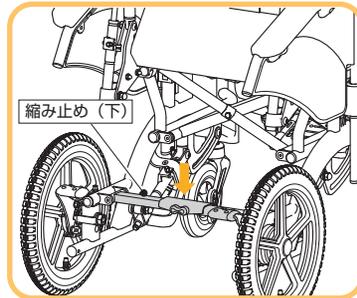
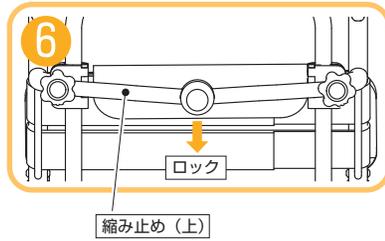
●車いすを広げる時に、座パイプの横や下に、手や指を入れないでください。  
(パイプに手や指を挟んでケガをします。)



**注意**

●車いすを広げた時、座パイプが受けに収まっているか確認して座ってください。  
(パイプが曲がったりして、転倒・転落事故及び故障の原因になります。)

⑥ 上下にある縮み止めを押し下げてロックします。



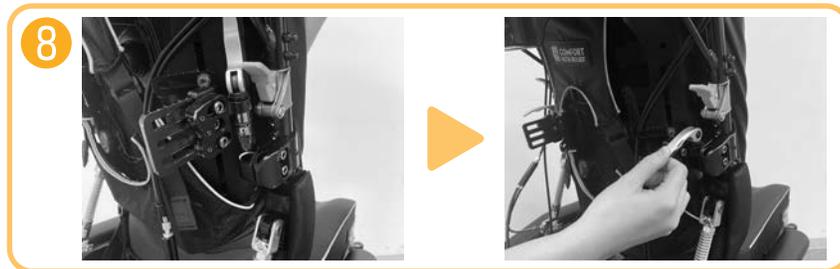
⑦ コの字型縮み止めパーツを差し込み、左右のノブボルトで固定します。(※P.15注意参照)



## ⚠ 注意

● 上下にある縮み止めは必ずロックした状態で使用してください。  
(強度が低下し、車いすが破損するおそれがあります。)

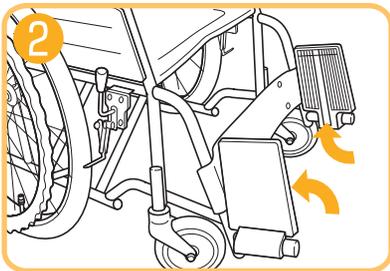
⑧ 受け金具の穴に、バックサポート本体の左右にあるピンをレバーを上げた状態で奥まで差し込み、レバーを下ろし固定します。レバーのゆるみがないことを確認してください。



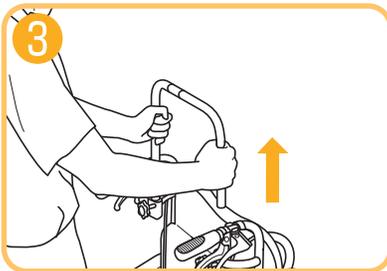
## 車いすの折りたたみ方

① 座クッションを取り外します。

② フットサポートを跳ね上げます。



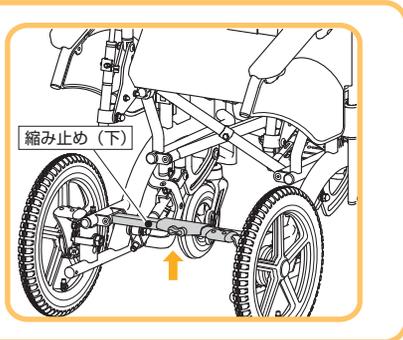
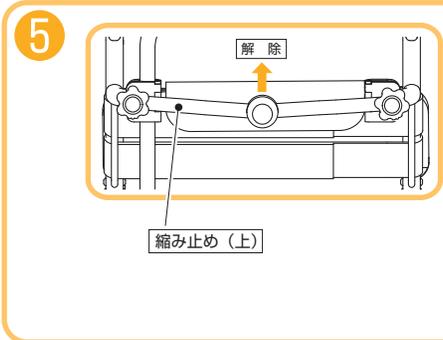
③ 左右のノブボルトをゆるめ、コの字型縮み止めパーツの片側(パイプ短)を抜きます。



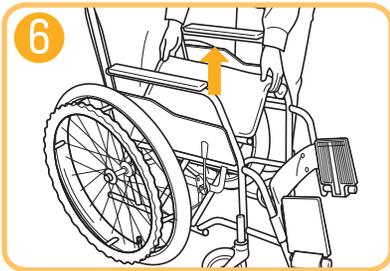
④ バックサポートの左右にあるレバーを上げてから、バックサポート本体を上を持ち上げて取り外します。



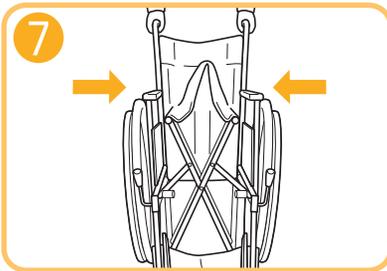
⑤ 上下の縮み止めを解除します。



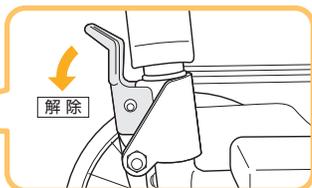
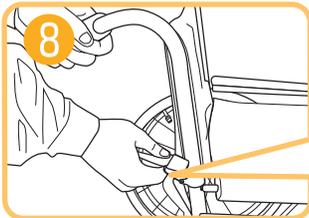
⑥ シートの前方と後方の中央を同時に持ち上げます。



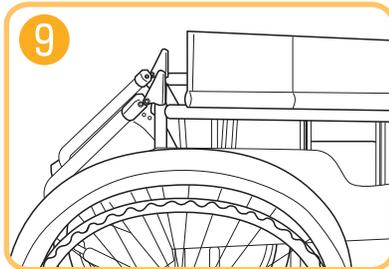
⑦ 左右のグリップを持ち内側にたたみます。



⑧ 背折れのロックを解除します。



⑨ バックサポートを両側後方に倒します。



### ⚠ 注意

● 保管する場所には十分注意してください。(P.24参照)

(長期間使用しなかった場合には、各部の点検をしてから使用してください。)

## 車いすの乗り方・降り方(立ち座り動作ができる場合)

下記の方法は様々な移乗方法の中のひとつです。使用者の身体状況や介助者の能力に合わせて、適切な移乗方法を選択してください。

### 警告

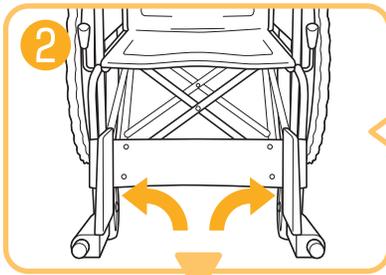
- 車いすに乗る・降りる前や、ベッドへの移乗時には、必ず駐車用ブレーキのドラロック(フットブレーキ)をロックしてください。  
(車いすが動き、転倒・転落事故の原因となります。)

### 注意

- 車いすの乗り降りは、路面の平坦な場所で行ってください。  
(車いすが動き、バランスを崩し、転倒・転落事故の原因となります。)

### 乗る時

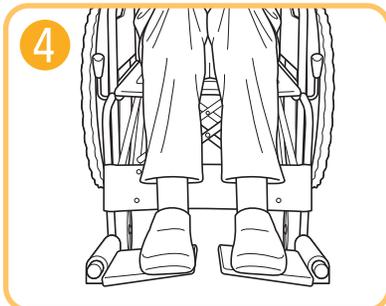
- 2 フットサポートを両側跳ね上げます。



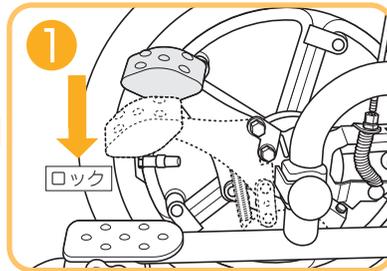
- 3 両手でアームサポートを持ちゆっくり座り込みます。



- 4 フットサポートに足を乗せます。

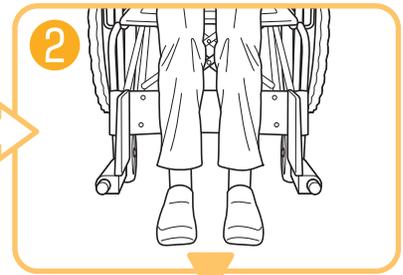


- 1 駐車用ブレーキのドラロック(フットブレーキ)を両側ロックします。



### 降りる時

- 2 フットサポートを跳ね上げ、足を下ろします。



- 3 両手でアームサポートを持ちゆっくり立ち上がります。



### 警告

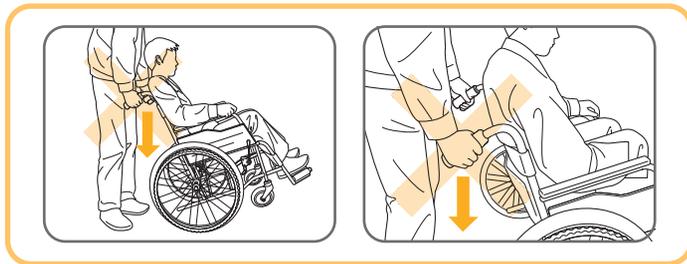
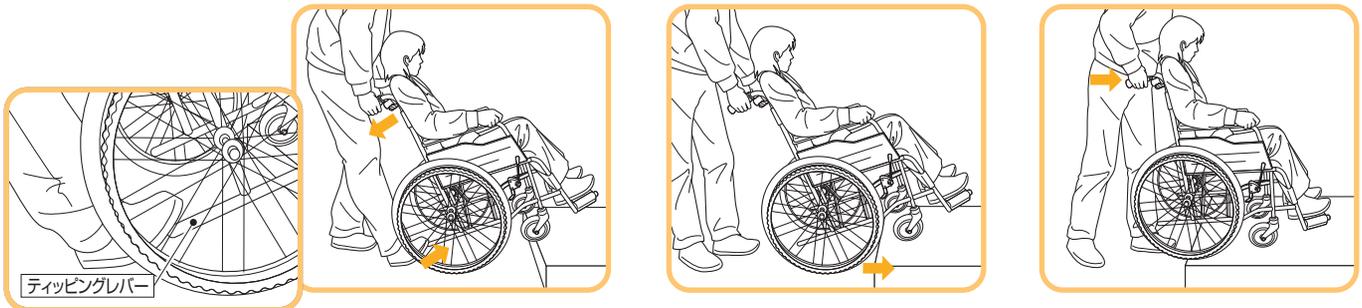
- フットサポートの上に乗って乗り込んだり、降りるとき上に立ち上がらないでください。  
(車いすがバランスを崩し、転倒事故の原因となります。)

## 介助のしかた

次のような使用場所や環境では、危険が伴う場合がありますので、必ず介助者の方が付き添ってください。

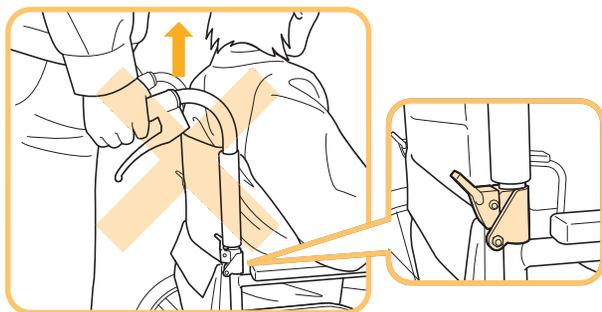
- ・坂道の登り下り
- ・踏切の横断
- ・側溝の格子蓋の横断
- ・悪路
- ・凸凹道
- ・電車への乗車、降車
- ・段差乗り越え
- ・路面が片側に傾斜しているところの走行

介助者の方は、段差を乗り越える場合は、ティッピングレバーを斜め前に踏みながらグリップを手前に引きキャスト(前輪)を上げ、キャスト(前輪)を段差に乗せてから、主輪を段差に当て、押しながら乗り越えてください。



### ⚠ 注意

- バックサポートパイプのみで、キャスト(前輪)を上げないでください。  
(バックサポートパイプが曲がったり、折れたりして、転倒・転落して事故の原因となります。)



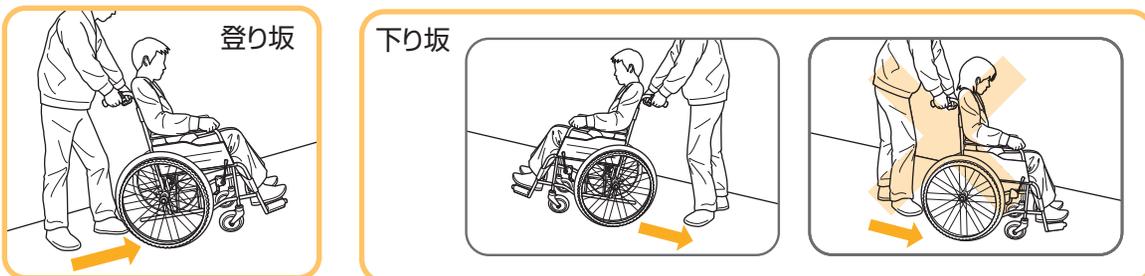
### ⚠ 注意

- 使用者が車いすに乗っている状態でグリップを持って吊り上げないでください。  
(パイプが外れたりして、転倒・転落事故の原因となります。)

### ⚠ 注意

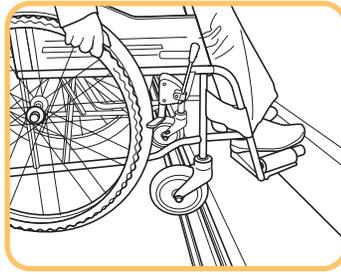
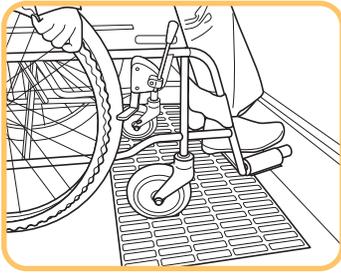
- スピードをつけて、段差を乗り越えようとししないでください。  
(使用者が車いすから、転落して事故の原因となります。)

坂道の登り下りでご使用される場合は、必ず介助者の方に支えていただいでください。



### ⚠ 注意

- 坂道を下るとき介助者の方は下り坂の下側に立ち、ゆっくり確認しながら後ろ向きに走行してください。  
(前向きで下ると、使用者がずり落ちたり、前のめりとなり、転倒・転落事故の原因となります。)



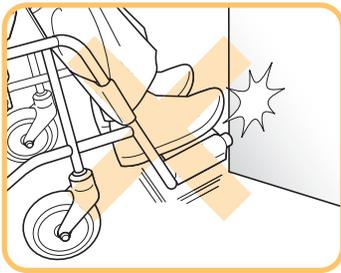
**警告**

- 側溝の格子蓋や踏切などでご使用される場合は、必ず介助者の方に支えていただいでください。  
(車輪が溝にはまって、転倒・転落事故の原因となります。)

**注意**

- 側溝の格子蓋、踏切のレール溝にキャスト(前輪)が落ち込まないように注意してください。  
(車いすが急に止まり使用者の体が前方に傾き、転倒・転落事故の原因となります。)

**【介助者の方へ】**



**注意**

- 移動中、つま先が障害物に当たらないように、確認して走行してください。

**注意**

- フットサポートに、足が乗っているか確認して走行してください。

**■階段などで、使用者が乗ったままの状態、介助者に吊り上げてもらう場合**

ベースパイプの固定されている箇所を持って、4~5人で支えてもらってください。



**注意**

- 必ず固定されている場所を持ってください。  
ヘッドサポート、アームサポート、フット・レッグサポート、操作レバー、ブレーキなどを持たないでください。

**注意**

- 車いすを持ち上げるときは座面の水平を保ち、使用者の転落には十分注意してください。

※重量がある場合には、人と車いすを別々に移動してください

## その他の注意事項



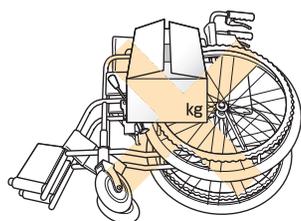
### ⚠️ 注意

- 車いすのシートの上で立ち上がらないでください。(転倒転落事故等の原因となります。)



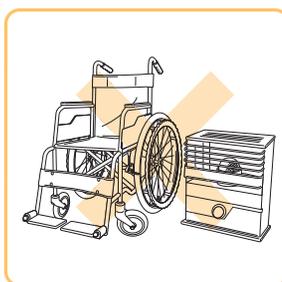
### ⚠️ 注意

- 車いすで荷物を運んだりしないでください。



### ⚠️ 注意

- 車いすを、横向きに倒して上に物を置かないでください。(重みで車輪フレームが、曲がったりして故障の原因になります。)



### ⚠️ 注意

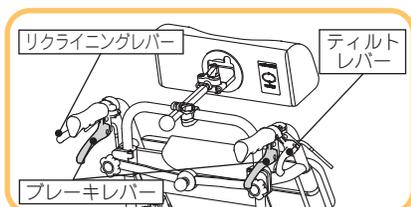
- 火気の近くに置かないでください。(タイヤがパンクしたり、シートが燃え火災の原因となります。)

## 各部機能の使用法

### ブレーキの使用法

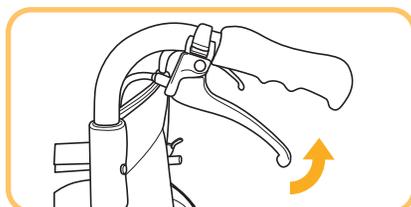
制動用ブレーキ 介助者の方が走行中や下り坂での減速及び停止にご使用ください。

- レバーを握るとブレーキがかかります。 ● レバーを離すと解除します。



### ⚠️ 注意

- リクライニングレバー、ティルトレバーと間違えないように注意してください。(不意にバックサポートが倒れ、転倒・転落事故などの原因となります。)



### ⚠️ 注意

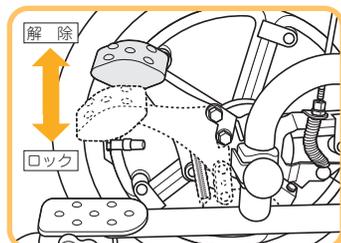
- 急ブレーキ、急発進、急旋回を掛けないでください。(使用者が前方へ転倒・転落するおそれがあります。)



### ⚠️ 注意

- 介助者の方は、制動用ブレーキレバーを両側同時にかけてください。(バランスを崩し、転倒・転落事故などの原因となります。)

### 駐車用ブレーキ:ドラロック(フットブレーキ)



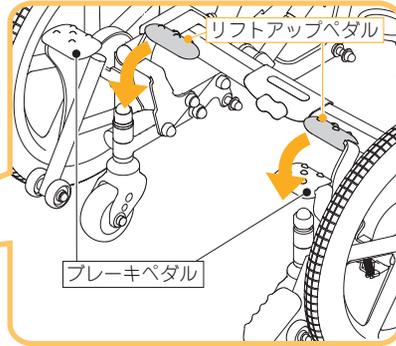
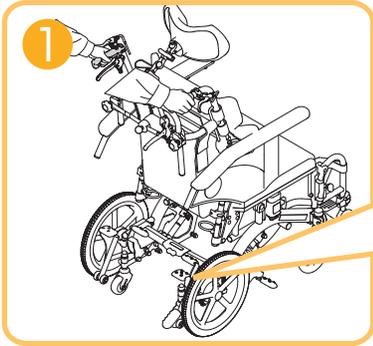
使用者が乗り降りする時、車いすが動かないようにするために、介助者の方がご使用ください。

- ブレーキペダルを足で踏み込むとロックします。
- 上げるとロックが解除されます。

## リフトアップの操作方法

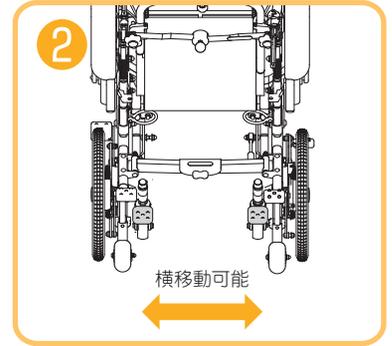
●主輪を浮かせることで、真横にも移動することができます。ベッドなどへの移乗の際に、何度も切り返す必要がありません。また、狭いスペースでも小回りが効きます。

① グリップを持ち、車いすが動かないようにしながら、リフトアップペダルを踏み込みます。

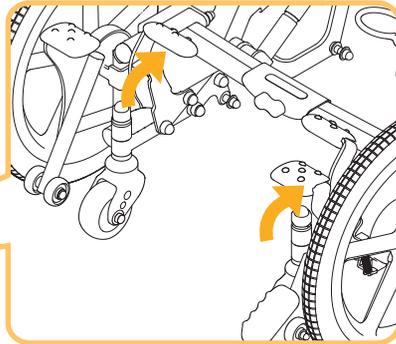
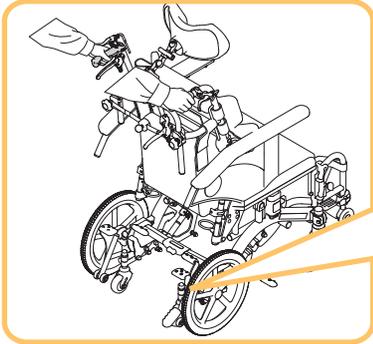


※ブレーキペダルと間違えないよう注意してください

② 主輪が浮いたことを確認し、移動してください。



戻るときも、車いすが動かないように、グリップを持ち、リフトアップペダルを足の甲で上げてください。



### ⚠ 注意

●必ず両側をリフトアップしてください。片側だけリフトアップすると、バランスを崩し、転倒・転落事故の原因となります。

### ⚠ 注意

●リフトアップした状態で段差の乗り越えや凹凸のある路面の走行をしないでください。必ず平坦な路面で、短距離の移動にご使用ください。

### ⚠ 注意

●リフトアップ操作時には車いすから手を離さないようにしてください。(車いすが動き危険です。)

### ⚠ 注意

●リフトアップした場合には、駐車用ブレーキのドラロック(フットブレーキ)がロックされていても、主輪が浮いているため車いすが動きます。人の乗せ降ろしなどの場合には、リフトアップを戻し車いすが動かないことを確認してから行ってください。

### ⚠ 注意

●ブレーキペダルとリフトアップペダルを間違えないように注意してください。(リフトアップ操作時にはブレーキが効かず車いすが動きます。)

### ⚠ 注意

●アームサポートを持って車いすを移動しないでください。(アームサポートが破損する原因になります。)

## ティルトとリクライニングの方法

ティルト(座面角度)調整とリクライニング(背もたれ角度)調整は同時に行わず、角度をつけるときは「①ティルト→②リクライニング」の順番で行い、角度を戻すときは「①リクライニング→②ティルト」の順番で行うことをおすすめします。ただし使用者の状況や使用の目的によって操作は異なります。

※エレベータリング機能を使用するときは、角度をつける場合はリクライニングの後に、角度を戻す場合は最初に行うと良いでしょう

### ティルトレバーの使いかた

- ティルトレバー(右側のレバー)を操作することにより、座面の角度を調整します。

座面は最大25°まで傾きます。

ティルト操作のときは、使用者が安心できるよう、「倒します」「起こします」と一声かけてください。



- ①ティルトレバーを握りながらグリップを持って、座面を倒したり起こしたりして調整できます。
- ②ティルトレバーを離すと、その角度で固定されます。

#### 警告

- ティルトレバーを操作するときは、グリップをしっかりと握って操作してください。  
(ティルトレバーを握った瞬間、使用者の体重の重みで座面がすぐに傾こうとしますので、使用者に不安を与えてしまいます。)

#### 警告

- ティルト操作のときは、必ずフットブレーキをロックし、車いすが動かない状態にしてから行ってください。  
(車いすが動き、危険です。)

### リクライニングレバーの使いかた

- リクライニングレバー(左側のレバー)を操作することにより、バックサポートの角度を無段階で調整します。バックサポートは座面に対して90~125°の範囲で調整できます。リクライニング操作のときは、使用者が安心できるよう、「倒します」「起こします」と一声かけてください。

※本製品は、使用者が車いすに乗っている状態での安全性を基準に開発されております。そのため、人が乗っていない状態では、操作はかなり重くなりますので、ご了承ください



- ①リクライニングレバーを握りながらグリップを持って、背もたれを倒したり起こしたりして無段階で調整できます。
- ②リクライニングレバーを離すと、その角度で固定されます。

#### 警告

- リクライニング操作のときは、必ず駐車用ブレーキのドラロック(フットブレーキ)をロックし、車いすが動かない状態にしてから行ってください。  
(車いすが動き、危険です。)



コの字型縮み止めパーツ

#### 注意

- コの字型縮み止めパーツを外したまま、使用しないでください。  
(転倒・転落事故の原因となり大変危険です。また、フレームの強度が低下し、車いす破損の原因となります。)



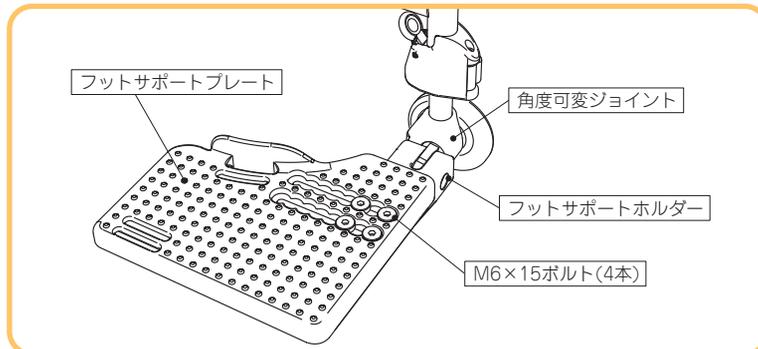
コの字型縮み止めパーツ

#### 注意

- リクライニング車いすのコの字型縮み止めパーツを持って、走行しないでください。  
(外れたりして、転倒・転落事故の原因となります。)

## フットサポート(前後&角度調整)

### 各部名称



### 前後調整方法

- 1 M6×15ボルト(4本)をゆるめます。
- 2 フットサポートプレートを前後にスライドさせます。  
※ボルト頭部が溝にはまる位置にします。
- 3 M6×15ボルト(4本)を締結します。

※適正トルク 10Nm

### 左右調整方法

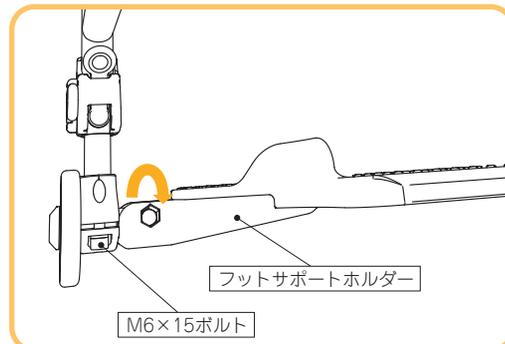
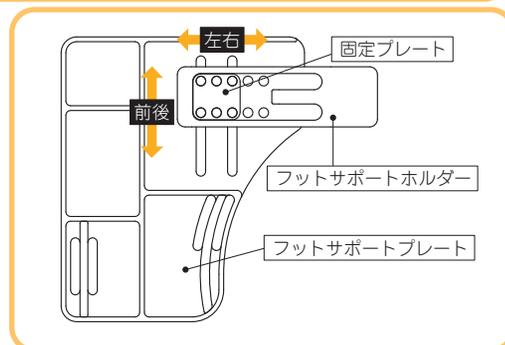
- 1 M6×15ボルト(4本)を取り外します。  
※固定プレートが外れますので紛失にご注意ください。
- 2 フットサポートホルダーの穴位置を任意の位置にずらします。
- 3 M6×15ボルト(4本)を締結します。

※適正トルク 10Nm

### 角度調整方法

- 1 M6×15ボルト(1本)をゆるめます。
- 2 フットサポートプレートを任意の角度に設定します。
- 3 M6×15ボルト(1本)を締結します。

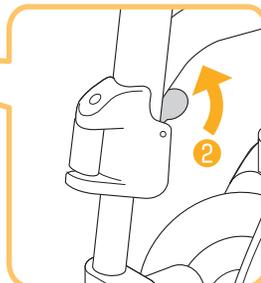
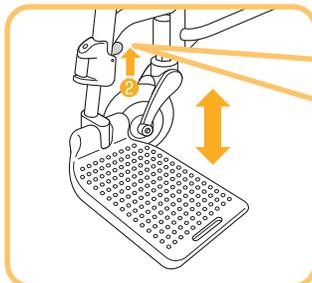
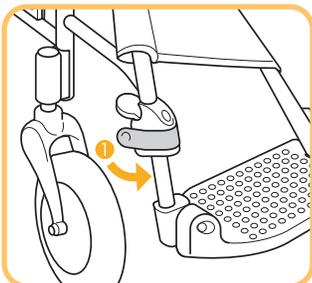
※適正トルク 10Nm



## フットサポートの高さ調整

### 〈高さ(長さ)の調整〉

- 1 回転レバーを回転させ、安全ロックを解除します。
- 2 プッシュレバーを押しながら高さを上下に調節します。
- 3 高さを調節し、プッシュレバーが戻っていることを確認して回転レバーを元の位置に戻してロックします。



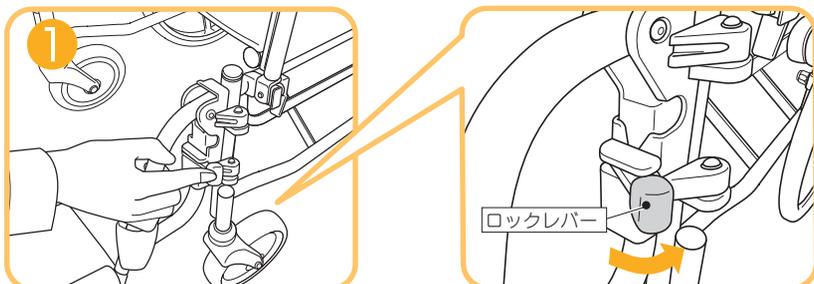
### ⚠ 注意

- フットサポートが固定されているか、確認してから使用してください。  
(フットサポートが脱落し事故の原因になります。)
- フットサポートは、室内で使用する際は地上高さより3cm以上、屋外で使用する際は地上高さより5cm以上でご使用ください。

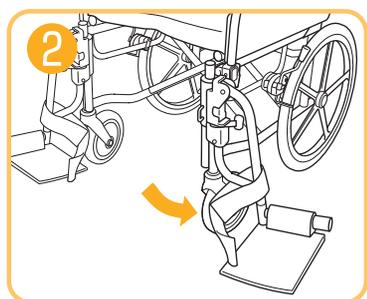
## フットレッグサポート スイングアウト

- フットレッグサポートをスイングアウト(外開き)したり、取り外すことによりトイレ・ベッドなどへの乗り移りがしやすくなります。介助の場合には、足元が広くなり、移乗動作が楽で安全に行えます。

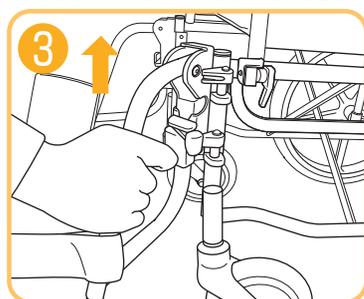
① ロックレバーを押し、ロックを解除します。



② レッグサポートを開くように外側に回転させます。



③ レッグサポートを取り外すときは、外側に回転した状態から上に持ち上げてください。



### ⚠ 注意

- スイングアウトを戻したときは、ロックが確実にされているか確認してください。(足を乗せたとき、フットレッグサポートが外れて足をケガする原因となります。)

### ⚠ 注意

- スイングアウトや着脱・取り付け操作時に、手を挟まないように注意してください。

- スイングアウトを戻すときは、ロックレバーを押したまま内側に回転させ、最後にロックレバーを離し、ロックされているか確認してください。

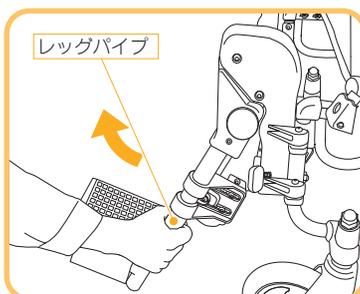
## フットレッグサポート スイングアウト&エレベーター

- 使用者の身体状況に応じて、フットレッグサポートをエレベーター(上下方向への角度調整)することができます。また、スイングアウトも可能です。

### エレベーターの操作方法(足角度の調整方法)

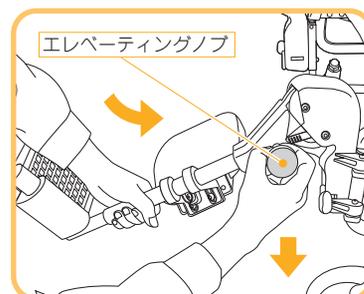
#### 上げる場合

レッグパイプを持ち、そのまま引き上げます。適当な位置になったら少し下げ、ロックされていることを確認して、手を離してください。



#### 下げる場合

レッグパイプを片手で持ち、もう一方の手でエレベーターノブを手前へ引きまします。(荷重で急激に下がらないようご注意ください。) 適当な位置になったらエレベーターノブを離し、少しレッグパイプを下げ、ロックされていることを確認して、手を離してください。



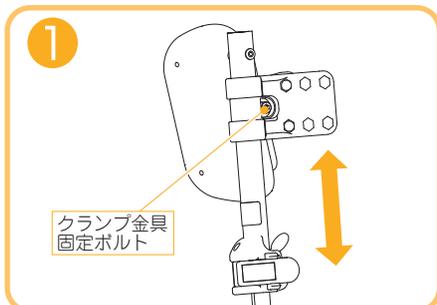
### ⚠ 注意

- ユニット本体と、エレベーター角度変更部の間で手・指などを挟まないようにしてください。必ずレッグパイプを持ち、支えながら操作してください。特に、使用者の足を乗せたままの状態で行うときは注意して操作してください。

## ふくらはぎパッドの位置調整

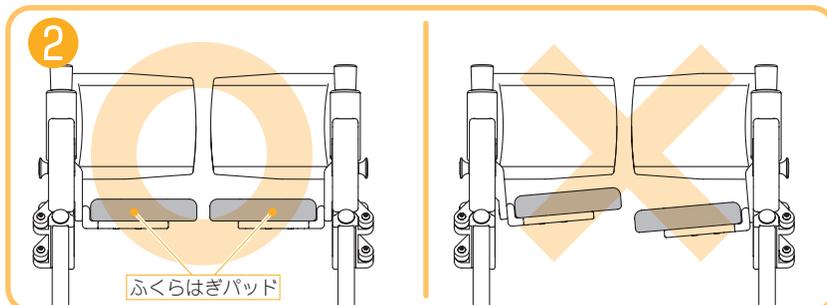
使用工具 ・対辺5mm六角レンチ

① クランプ金具固定ボルトをゆるめ、位置を調整します。位置が決まったらボルトを軽く締めてください。



② ふくらはぎパッドを使用状態の位置に戻し、回転が止まる位置を確認してください。回転が止まる位置は下図のように左右のふくらはぎパッドが揃うように調整してください。

調整ができれば①のボルトを締めてください。 ※適正トルク 10Nm



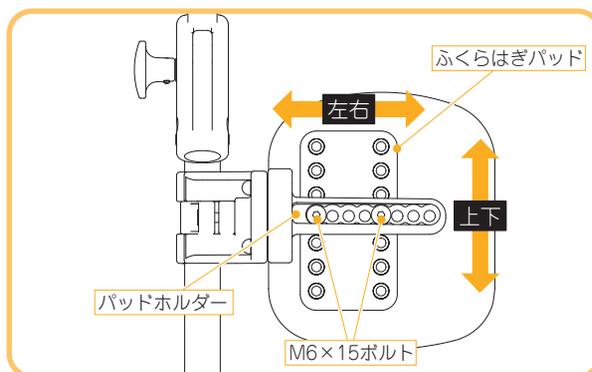
## ふくらはぎパッド位置調整部による調整

使用工具 ・対辺4mm六角レンチ  
・対辺5mm六角レンチ

### 上下左右調整方法

M6×15ボルト(2本)を外します。  
※ふくらはぎパッドが外れますのでご注意ください。  
上下方向はふくらはぎパッドの穴位置、左右方向はパッドホルダーの穴位置で決定し、任意の穴位置でボルトを締結します。

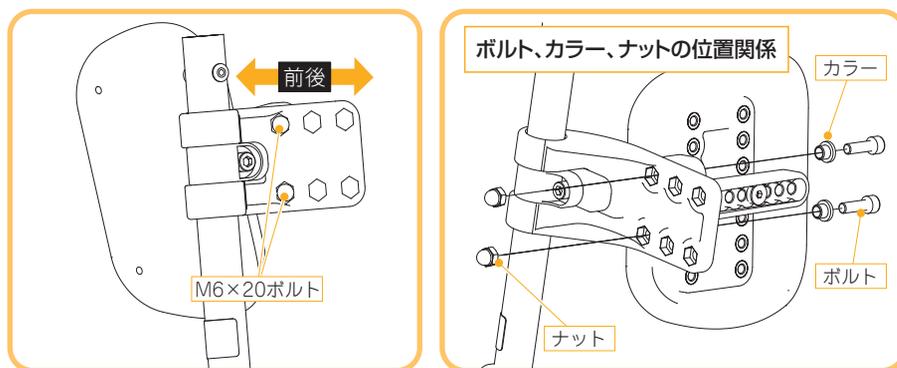
※適正トルク 6Nm



### 前後調整方法

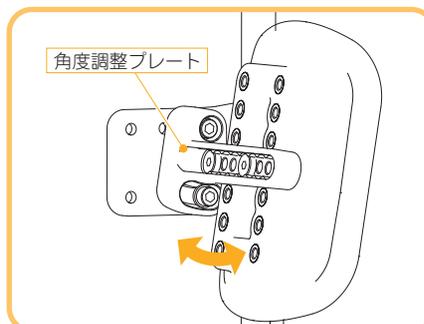
M6×20ボルト(2本)を外します。  
※カラー・ナットも外れますので紛失しないようご注意ください。  
任意の穴位置でボルト、ナット、カラーをはめて締結します。

※適正トルク 6Nm



### 角度自動調整

角度調整プレート位置が可変し、脚に合わせてふくらはぎパッドの角度の調整が自然に行えます。

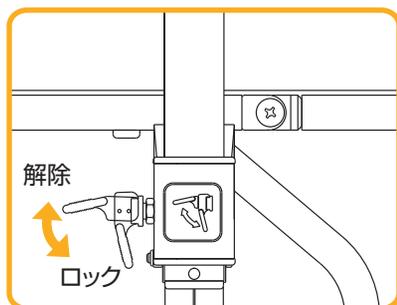


## アームサポートの使用方法

### アームサポートの高さ調節のしかた

- 使用者の身体状況にあわせてアームサポートの高さを9段階で調節することができます。  
※さらに、シートと同じ高さまで下げることができるので、車いすからの乗り移りを容易に行うことができます。

- ① セーフティーロックのレバーを上げ、ロックを解除してください。



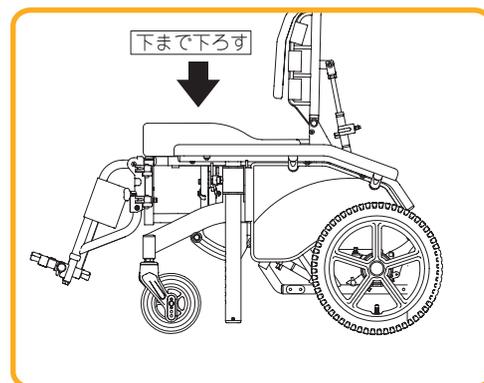
- ② アームサポートを上下に動かして高さを設定し、セーフティーロックのレバーを倒してロックしてください。

### 確認

セーフティーロックが確実にロックされていることを確認してください。レバーがぐらぐらしているときは、ロックされていません。(アームサポートをもって少し上下に動かすとカチッと音がし、ロックされます。)

〈乗り降りの際〉

セーフティーロックを①のように解除し、アームサポートを最も下まで下ろします。



### 注意

- アームサポートを下ろすときは、肘パッドの内側に指を挟まないようにご注意ください。

## ヘッドサポートの使用方法

### ●アクトモア ヘッドサポート

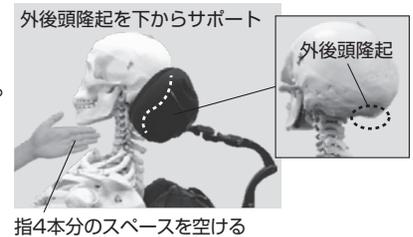
- ・5ヶ所の調整部位とヘッドサポートがフレキシブルに動き、最大限のサポートと快適性を提供します。
- ・カバーは2層の生地を使用し、頭や耳が接する部分はすべりにくく生地と生地がすべるので、接触する部分の摩擦を軽減します。

### ●調整適合

頭部の位置に合わせて上下・前後・回転、ヘッドサポート部の左右角度の調整ができます。

#### ポイント

- ・外後頭隆起の下部からサポートするようにヘッドサポートを調整します。
- ・頭部の位置は、あごの下に指4本分(軽くうなずく程度)をめやすにすると、食事が摂りやすい角度になります。



### ⚠ 注意

- フレームのすき間に指や手を挟まないように注意してください。

## 高さの調整

- 1 支柱受けにあるノブネジをゆるめます。
- 2 頭部の位置にあわせてヘッドサポートの高さを調整します。
- 3 調整が終わったら、ノブネジをしっかり締めて固定します。  
本製品を抜き差しするとき、高さ固定金具により一度決めた位置で固定できます。
- 4 高さ固定金具を六角棒スパナ2mmでゆるめます。
- 5 支柱受けに当たるところまでスライドさせてください。
- 6 高さ固定金具のネジを確実に締めて固定します。



支柱受けの位置を替えることで、高さを2.5cm調整できます



※ヘッドサポートベース裏側のネジは、六角棒レンチ1/8インチが必要です



## 頭部の回転調整

- 1 頭部の回転調整ネジ3ヶ所を六角棒スパナ4mmでゆるめます。
- 2 頭部の位置にあわせて角度を調整します。
- 3 調整が終わったら、全てのネジを確実に締めて固定します。

回転:360度



回転調整ネジ



上下:80度



左右:45度



## 前後左右の回転調整

- 1 5ヶ所の調整ネジを六角棒スパナ4mmでゆるめます。
- 2 頭部の位置にあわせて前後左右の位置を調整します。
- 3 調整が終わったら、全てのネジを確実に締めて固定します。

左側からサポート



前方でサポート



右側からサポート



後方でサポート



## ヘッドサポート部の左右角度調整

- 1 ヘッドサポートの裏にあるファスナーを空けてカバーをめくります。
- 2 左右2ヶ所の調整ネジを六角棒スパナ4mmでゆるめます。
- 3 頭部の位置に合わせて角度を調整します。
- 4 調整が終わったら、全てのネジを確実に締めて固定します。



左右それぞれ10度ずつ  
10段階に調整可能



### ⚠ 注意

- 本製品を持って車いすを持ち上げたり、移動しないでください。事故の原因となります。

## バックサポートの調整方法

本体の位置調整(前後・上下・角度)や背もたれの張り調整ができます。

### 角度の調整方法

バックサポートの角度を微調整することができます。

- 1 調整金具の側面にあるネジ(2ヶ所)を六角棒スパナでゆるめ、本体の角度を調整します。
- 2 身体状況に合わせて調整し、角度の位置を決めてください。
- 3 位置が決まったら、調整金具のネジを確実に締めて固定します。
- 4 角度が変わらないように六角穴付き止めネジ(後面)を六角棒スパナで締めます。



### 上下の調整方法

バックサポートの高さを上下に調整ができます。

- 1 本体フレームの左右にあるネジ(2ヶ所)を六角棒スパナでゆるめ、本体を上下に動かし高さを調整します。
- 2 身体状況に合わせて調整し、高さの位置を決めてください。
- 3 位置が決まったら、調整金具のネジを確実に締めて固定します。



### 奥行き前後の調整方法

座面の奥行き調整をバックサポートを前後させることで可能です。

- 1 調整金具側面にあるネジ(1ヶ所)を六角棒スパナでゆるめ、本体を前後に動かして奥行きを調整します。
- 2 身体状況に合わせて調整し、奥行きの位置を決めてください。
- 3 位置が決まったら、調整金具のネジを確実に締めて固定します。



### 背張りの調整方法

- 1 バックサポートの裏面にあるカバーベルトを外しカバーをめくります。
- 2 背張り調整部のワイヤシステムがロックされていることを確認してください。
- 3 ワイヤシステムのダイヤル部を時計回りに回すと背の張りを縮めることができます。全3ヶ所のワイヤシステムを身体状況に合わせて、背の張り調整ができます。  
※空回りする場合は、ワイヤシステムを「カチッ」と鳴るまで押し込んでください
- 4 背の張りをゆるめるときは、ワイヤシステムのダイヤル部を深くつまみ、親指で浮かせるようにロックを外してください。再度背の張りを調整する場合は、ワイヤシステムを「カチッ」と鳴るまで押し込んでからダイヤルを回してください。



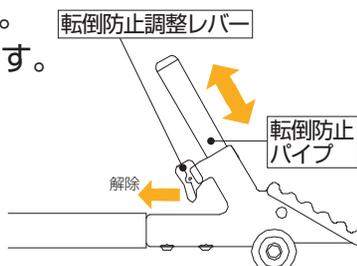
## 転倒防止

- バックサポートを後方ヘリクライニングした場合などに車いすが後方へ倒れないようにします。

- 車いすが後方へ転倒することを防ぎます。

転倒防止の高さは4段階調整できます。調整は転倒防止調整レバーにて行います。

- 1 転倒防止調整レバーを解除します。
- 2 転倒防止を適当な位置にします。
- 3 転倒防止調整レバーをロック位置にします。



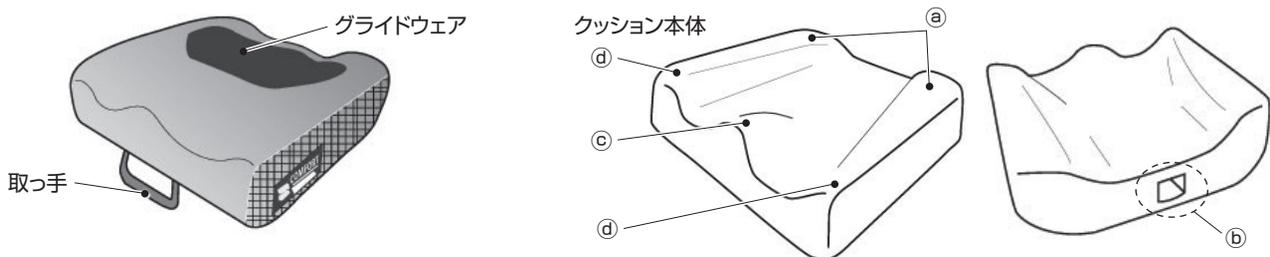
### ⚠ 注意

- 転倒防止パイプを調整し転倒防止調整レバーが「カチッ」と音がして、確実にロックされていることを確認してください。

# クッション

## エンブレискッションの特長

- 骨盤から大腿骨まで立体的にサポートできるので安定した姿勢を保ちやすく、座り心地も優れたクッションです。
  - ①座骨結節部にかかる圧を大腿部に再分配させて骨盤を安定
  - ②尾骨にかかる圧をスリット形状で軽減
  - ③下肢の内転を防ぎ、足をまっすぐ下ろせるようサポート
  - ④下肢の外転を防ぎ、姿勢を安定
- カバーは2層の伸縮する素材のグライドウェアにより、座骨結節部の摩擦とずれを軽減します。



## 使用方法

専用カバー外側の取っ手のある側が車いすの前側にくるように、車いすのシート(座面)に設置してください。

### ⚠ 注意

正しい向きで車いすのシート(座面)に設置してください。

### ⚠ 警告

- 本製品は車いす用のクッションです。安全にお使いいただくために、用途以外の使用はしないでください。
- 包装用ポリ袋は、製品を取り出した後、穴をあけて廃棄してください。ポリ袋を誤ってかぶったりすると、窒息する危険があります。
- 定期的に圧迫を開放してください。  
本製品は効果的に座圧を分散しますが、長時間同一姿勢の座位を続けると、床ずれの原因となります。
- 本製品を使用中の喫煙は、おやめください。  
火種の落下などによりやけどや火災の原因となります。
- 使用中に体に異常を感じたり、不安を感じた場合は、ただちに使用をやめ、当社にご連絡ください。  
症状悪化や事故のおそれがあります。

### ⚠ 注意

- 常に乾燥した清潔な状態で使用してください。  
専用カバー洗濯後など、十分乾燥していない状態で使用すると、カビの発生や皮膚トラブルの原因となります。
- 低温的环境下(10℃以下)では、ウレタンフォームが硬くなることがあります。  
室温になじませてから使用してください。
- 本製品を正しい向きで車いすのシート(座面)に設置してください。  
誤った向きに本製品を設置すると、効果がのぞめなかったり、体が左右に傾いたり、症状を悪化させるおそれがあります。
- 直射日光の当たる場所や常温範囲外での使用は避けてください。  
ウレタンが劣化するおそれがあります。
- 本製品の上に物を置かないでください。  
圧縮した状態が続くと変形やへたりの原因となります。

# 車いすのお手入れの方法

- 使用する前には必ず「使用前の準備と点検」を確認し、常に安全な状態で使用してください。
- 車いすは湿気に弱いため、水のかかる場所などに放置しないでください。
- フレームはときどき乾いた布でふいて、汚れを除いてください。
- シート(座面)が汚れたときには、強く絞った布などですぐにふき取ってください。
- ひどい汚れの場合は、薄めた中性洗剤とブラシを使用して汚れを落としてから常圧の水道水を清掃した場所にやさしくかけてください。作業が終了後ただちに雑巾などで水分をふき取って乾燥させてください。
- クッション
  - 専用カバー…洗濯できます。水温60度以下であれば、洗濯機の使用が可能です。(漂白剤(酸素系)の使用可)低温であればタンブラー乾燥は可能です。蒸気洗浄やアイロンなどは使用しないでください。洗濯後は吊り干しをしてください。
  - クッション本体…洗濯できません。濡れてしまった場合は、風通しの良いところで陰干しをしてください。
- バックサポート
  - 【フレーム部】  
汚れたときは、水を含ませた布を固く絞り、ベース部の表面の汚れをふき取ってください。
  - 【パッド部】
    - カバー…洗濯できます。水洗いをしてください。
    - 中 材…洗濯できません。  
バックサポートのカバーは防水仕様ですが、濡れてしまった場合は、風通しの良いところで陰干しをしてください。
- ヘッドサポート
  - 【ヘッドサポート部】
    - カバー…洗濯できます。水洗いをしてください。
    - 中 材…洗濯できません。
  - 【フレーム部】  
汚れたときは、水を含ませた布を固く絞り、表面の汚れをふき取ってください。
- 清掃は、水につけたタオルを強くしぼり、泥やホコリを拭き取った後に乾いた布で仕上げ拭きをしてください。揮発性剤(シンナー・ベンジン・アルコール類)では、清掃しないでください。変色・劣化の原因となります。ホースなどで、直接水をかけないでください。車輪及びフレーム内部・ブレーキ部などに水滴が残り、錆の原因となります。
- タイヤにはひび割れを防ぐために老化防止剤が配合されていますので、次のような環境及び薬剤はさけてください。タイヤの劣化を促進させ、ひび割れの発生原因となります。

- オゾン(O<sub>3</sub>)
- 光線(紫外線)、熱・伸張等の機械的作用。
- 銅・マンガンのような金属の塩、石鹼などの容易に酸化される物質。
- シリコン系ワックス(自動車タイヤ用ツヤ出し剤、潤滑剤、錆落としなど)。

- 車いすに異常がある場合は、取扱店で、点検・修理を行ってください。  
その状態で使用されますと、使用中に破損し、事故の原因となります。

- タイヤ・キャスト輪の劣化・ひび割れ・エア漏れ
- 各部固定部品の変形
- ボルト・ナット・ネジの緩み
- フレームのひび割れ・曲がり・がたつき
- 主輪・キャスト(前輪)の変形
- 制動用ブレーキ・ドラロック(フットブレーキ)の効き具合

## 保管場所

次のようなところでは、保管しないでください。  
故障の原因となります。

- 雨に濡れるところ
- 直射日光が当たるところ
- 湿気の多いところ
- 高温になるところ(45度以上)
- 炎天下

## 車いす点検シート

安全にご使用していただくために、定期的に点検をしてください。  
(長期間ご使用にならなかった場合は、ご使用前に点検をしてください。)  
点検の結果、異常があった場合はご使用にならず、調整・部品交換をしてからご使用ください。

点検項目		年月日 点検者					
キャスタ(前輪)	亀裂・キズの有無						
	キャスタの摩耗						
	スムーズな回転						
フォーク	損傷の有無						
	スムーズな旋回						
主輪(後輪)	タイヤの空気圧						
	タイヤの摩耗						
	スムーズな回転						
フレーム	各部キズの有無						
	ボルト・ナットの緩み						
	スムーズな折りたたみ						
操作部	可動部のがたつき						
	ボルト・ナットの緩み						
連結部	がたつき						
ブレーキ	ブレーキの効き						
シート	シートの破れ・損傷						
	シート固定ネジの緩み						
フットサポート	固定ボルトの緩み						
	プレートの破損						
アームサポート	固定ボルトの緩み						
	パッドの破損						

## 消耗品・交換部品

それぞれの部品が交換時期になったときは、お早めに交換してください。

品名	交換時期
駆動輪・主輪	タイヤの表面に溝がなくなったとき
キャスタ	タイヤの表面に溝がなくなったとき
シート(座面)	ほつれ、切れ目が発生したとき ひどく汚れたとき
ワイヤ	ワイヤにほつれ、亀裂、サビが発生したとき スムーズに動作しなくなったとき
ガスダンパー	反発する力が低下したとき

# 廃棄方法

- ・お住まいの各自治体の指示にしたがい、処分・廃棄してください。
- ・地球環境のため、放置はしないでください。

## もしこんなトラブルが発生したときは

車いすをご使用されていて故障かな、と思うトラブルが発生したら、修理を依頼するまえに下記項目を確認してください。

トラブル	確認点	対処
走行操作が重い	・主輪・キャスト(前輪)に髪の毛、ビニール等が巻きついていませんか	取り除いてください
真っ直ぐ走らない	・キャスト(前輪)が片寄りしていませんか	当社まで連絡してください
制動用ブレーキが効かない	・ワイヤが、ねじれていませんか	ワイヤのねじれを調整してください
	・ワイヤの遊びが多くありませんか	当社まで連絡してください
駐車ブレーキが効かない	・タイヤは、摩耗していませんか	当社まで連絡してください
	・リフトアップしていませんか	リフトアップした場合はブレーキが効きません。 リフトアップを解除してください
リクライニング操作ができない	・ワイヤのねじれ、引っ掛かりがありませんか	ワイヤのねじれ、引っ掛かりを直してください
	・使用者の体や小物などがはさまってませんか	取り除いてください
ティルト操作ができない	・ワイヤのねじれ、引っ掛かりがありませんか	ワイヤのねじれ、引っ掛かりを直してください
	・使用者の体や小物などがはさまってませんか	取り除いてください
	・車いすに人を乗せていますか	車いすに人を乗せていない状態では、操作が重くなります

# 空気圧管理不要タイヤメンテナンス方法

## 安全にご使用していただくため、次の確認をお願いします。

- ・タイヤ表面の摩耗・亀裂。
- ・スムーズな回転、異音 など。
- ・車輪のホイールの傷の有無。
- ・駐車用ブレーキでロックした際、主輪は回転しないか。
- ・損傷 など。

※空気圧管理不要タイヤには、ウレタン素材を使用しています。

この素材は、水と反応し分解する(加水分解)性質があり、その結果タイヤのヒビワレ、表面の剥離など発生する場合があります。メンテナンスの際には、十分に水分を拭き取ったあと風通しの良い日陰でよく乾燥させてください。(直射日光は避けてください。)

※保管時にも、高温多湿、雨、直射日光に注意してください

# 株式会社フロンティア

フリー  
コール **0120-294-518**

千葉本社 福祉本部 〒261-0002  
千葉県千葉市美浜区新港42-4  
TEL.043-301-8338

●アフターサービスのお問い合わせ

取扱店